

国際衛星デジタル通信サービス用地球局向け
オフセットグレゴリアンアンテナ

1984年（昭和59）、すべての角度方向でのサイドローブレベルが極めて低いオフセットグレゴリアンアンテナを開発した。1次放射器を副反射鏡に近づけて配置することにより、近軸から広角まですべての角度方向でのサイドローブレベルが極めて低く、かつ交差偏波特性も非常に優れた性能が得られた。このアンテナはCCIRへも報告され、地上中継用としてばかりでなく、将来の衛星通信用アンテナとしても極めて有望との評価を得た。その後、IBS用地球局アンテナとして実用化された。

出典：KDD 社史